

真岡市役所視察の振り返り・意見交換について

R6. 2. 26

1 視察日

令和6年1月25日(木) 午後2時30分～4時00分

2 視察目的

- ・真岡市新庁舎の付加機能などを見学し、今後の基本計画の検討につなげる。
- ・建設中の複合交流施設の考え方や効果を学び、今後のランドデザインの検討につなげる。
- ・本市新庁舎の想定規模の参考とする。(複合交流施設6,832㎡、本市新庁舎想定規模5,700㎡)

3 視察行程

真岡市担当者による説明後、市庁舎内見学(複合交流拠点建設現場をテラスや屋上から目視)

4 視察結果

- (1) 基礎データ 真岡市の人口：77,388人(R6.1.1現在)、面積：167.34㎡
 ※本市の人口：24,035人(R6.1.1現在)、面積：174.35㎡

(2) 建設までの主要経過

年度	月	新庁舎	複合交流拠点
H23	9～	基本構想の検討開始	
H24			
H25	1	基本構想を策定(約2年4箇月)	
H26	6～	基本計画検討市民会議を開催(全5回)	
	3	基本計画を策定(約9箇月)	
H27	12～	基本設計に着手	
H28	4	新庁舎建設準備室を設置	
	5～	新庁舎建設市民会議を開催(全5回)	
	3	基本設計を策定(約1年3箇月)	
H29	5	土地収用法事業認定	(石坂現市長が就任)
	6～		新庁舎周辺整備の検討開始
	3	実施設計を策定(約1年)	新庁舎周辺整備基礎調査報告書作成
H30	4		新庁舎周辺整備推進室を設置
	10～	建設工事に着手	
	3		新庁舎周辺整備基本構想を策定
H31・R1			
R2	4		総務部にプロジェクト推進室を設置
	5		新庁舎周辺整備基本計画を策定
	7	竣工(約1年9箇月)	
	9	開庁	
R3	4	(以後所管は財政課管財係)	プロジェクト推進室を総合政策部に移管
R4	4		プロジェクト推進課に名称変更
	3～		建設工事に着手
R5			
R6			
R7	春		開館予定

(3) 新庁舎

◇ 敷地選定過程

8箇所の候補地から、都市計画やまちづくりの継続性、経済的負担、市民の利便性を総合的に勘案して「本庁舎敷地及び周辺地域」を建設地として選定した。

なお、建設地内には、本庁舎敷地(6,715.65㎡)のほか、栃木県芳賀庁舎敷地(4,984.48㎡)、厚生労働省 労働基準監督署敷地(555.53㎡)の公有地と、民有地(436.69㎡)が含まれており、公有地については交換により、民有地については土地収用法による事業認定を受けた上で買収により取得した。

◇ 省資源・省エネルギー

- ・太陽光発電設備(約40kw)
- ・地下水を利用した省エネ空調
- ・雨水を貯留しトイレの洗浄水に利用 等



延床面積 13,770㎡ (5階建て)
事業費 76.6億円

(4) 複合交流拠点

◇ 整備の目的

新庁舎建設に伴い、現庁舎の解体後の跡地については市民の憩いの場となるような施設の設置を検討するとしていたところ、H29.5の石坂現市長の就任をきっかけとし、本格的な新庁舎周辺整備の検討に取り掛かり、新庁舎周辺がまちの「顔」となるよう、多様な機能が集積した多くの市民が交流する拠点を整備することとした。

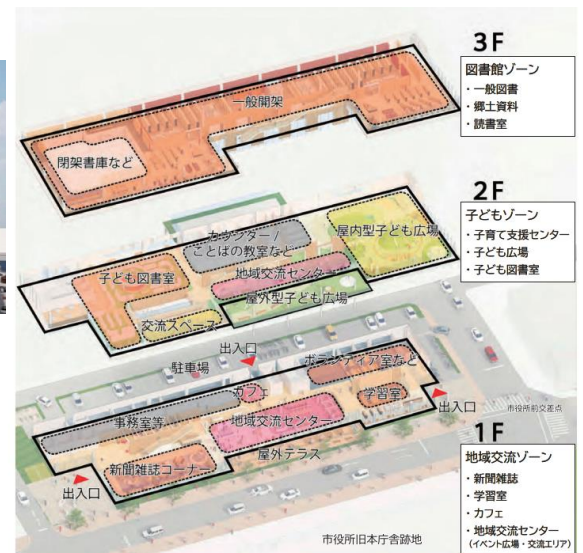
【現在建設中】



【完成イメージ】



延床面積 6,832㎡
3階建て
事業費 38.8億円



(5) 真岡まちづくりプロジェクト

令和3年4月に「公共空間を活かしながら、市民の手によるまちづくり実験を行う」プロジェクトとして、高校生以上20人のメンバーで活動を開始。



令和3年度

前期 ワークショップを行いながら、後期の社会実験に向けて計画を立案。

後期 まちをつくろう社会実験

五行川河川緑地チーム

→河川敷の芝生広場にてドッグランの設置やマルシェを開催



二宮コミュニティセンターチーム

→センター南側の芝生広場にてドッグランの設置、マルシェや青空図書館を開催

青空ステーションチーム

→市役所2階の市民プラザのテラスにベンチを製作し設置。

久下田駅さくらホールチーム

→駅舎1階のギャラリーホールにウインドウアートを製作。

金鈴荘チーム

→地元高校と協力し、文化財を活用した高校生イベントを開催。



令和4年度

市役所2階の青空ステーションに本棚を設置

10/30に金鈴荘にてハロウィン芸術祭を開催（10/30）。

11/13に真岡親子フェスを開催。

→フリマや、ストリートピアノ・楽器作りを通じた音楽体験を開催。

冬休み・春休みに寺子屋ドーナツを開催。



令和5年度

体験講座の開催

夏休み・冬休みに寺子屋ドーナツを開催。

9/2にナイトライブラリーを開催



(6) 複合交流拠点の運営に向けた新たな市民協働の取組

R7春に開館する複合交流拠点の運営においても市民に携わってもらうため、R5.8から市民参加の公開セミナーを開催。

第1回（R5.8.5）「市民主体によるまちづくり手法を考える」

第2回（R5.10.7）「新しい公共へ ソーシャルキャピタルを考える」

第3回（R5.12.2）「図書館経営のかたちを探る 真岡型協働の可能性」

第4回（R6.2.3）「子ども子育て支援 子どもが まんなか」



真岡市役所庁舎



すべての人にやさしい庁舎

議員席や傍聴席に、車椅子利用者用のスペースを確保したバリアフリー対応の議場



見やすく読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用したサイン計画



市民サービスの向上

来庁者の多い窓口部門を1階に集約して配置。一目で見渡せる一文字型のカウンターを採用



1階には広大なオープンスペースとして市民ロビーを配置。休日でも市民が利用可能



多彩な市民活動が可能な「もおかテラス」を1階屋上に配置。駐車場とスロープでつながり、祭りやイベントで一体利用が可能



もおかテラスと一体的に利用できる開放的な多目的空間である市民プラザ



機能的な庁舎

市民ニーズや時代の変化に柔軟に対応するため、ユニバーサルレイアウトを採用



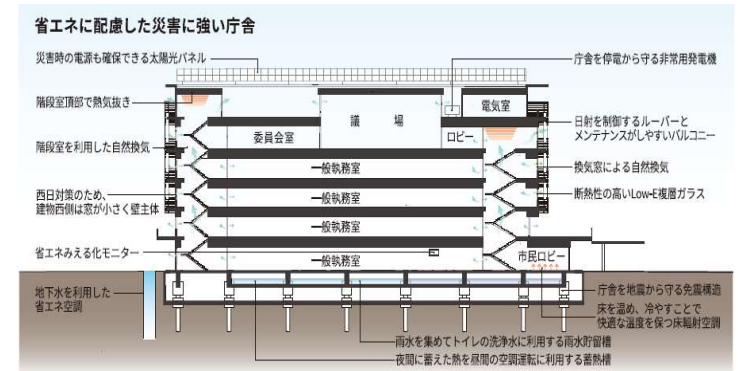
安全・安心の拠点

免震構造が揺れを軽減し、震度6強の地震が発生しても、庁舎としての機能維持が可能



環境への配慮

地域特性を生かした環境配慮技術を導入し、普段の省エネを転用することで高いBCP性能の確保にも寄与



1



担当者説明

2



議場（5 F）

3



防災対策室（3 F）

4



防災対策室（3 F）

5



もおかテラス (2F)

6



もおかテラス (2F)

7



市民プラザ入口（2F）

8



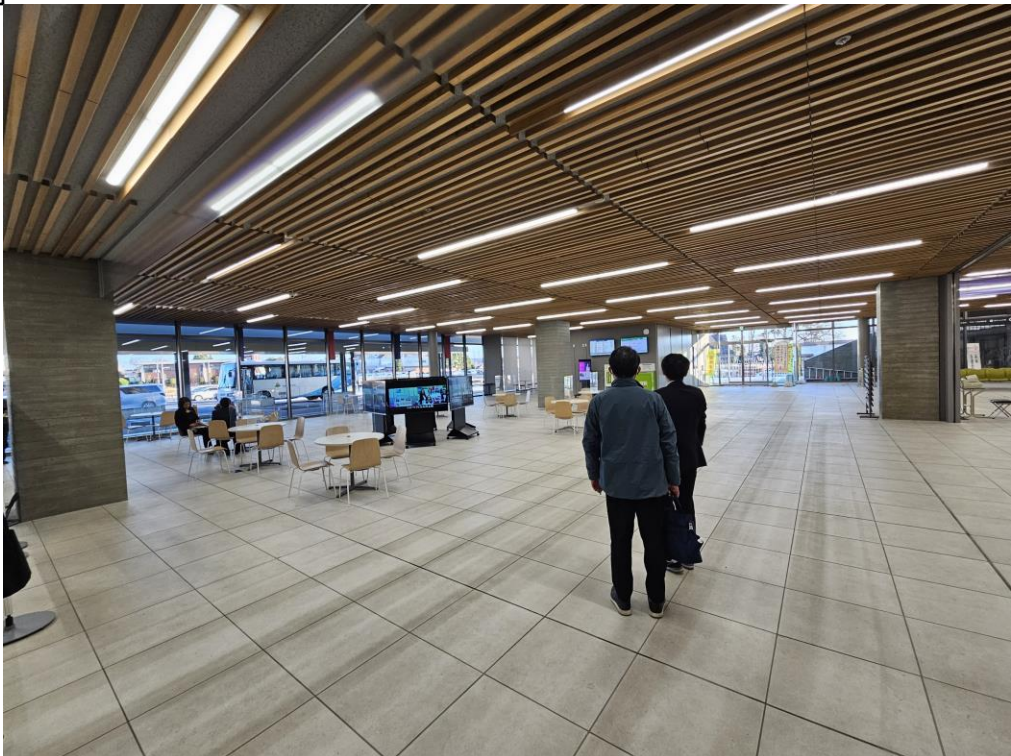
市民プラザ入口（2F）

9



市民ロビー（1F）

10



市民ロビー（1F）

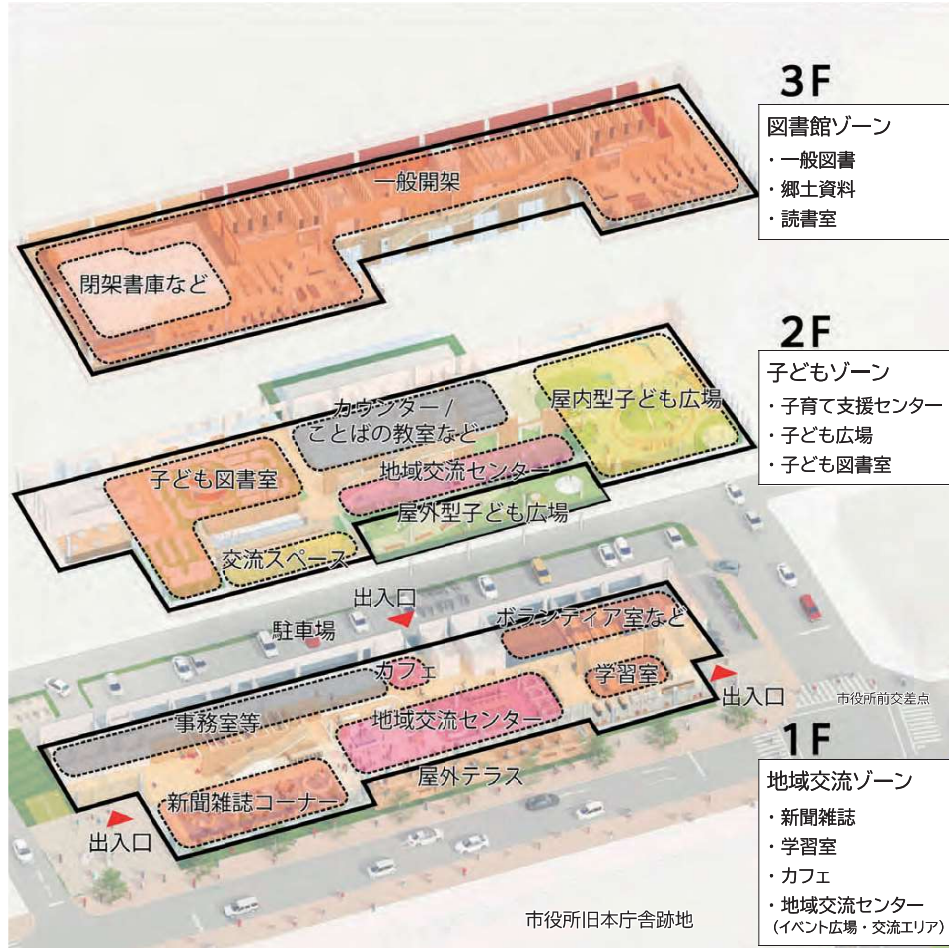
事業費の内訳

建設工事費	29億9,640万円	複合施設、 駐車場等の工事費
設計調査費	2億5,850万円	設計費、事前調査費
備品購入費	5億5,330万円	遊具、本棚等の 購入・設置費
合計	38億820万円	

施設の概要

所在：真岡市荒町5131番地（新庁舎北側、附属体育館跡地）
 構造：鉄骨造、3階建て
 面積：延べ6,832㎡（予定）

市では、平成29年から新庁舎周辺整備事業として検討を開始し、平成31年3月に基本構想、令和2年5月に基本計画を策定してきました。
 施設の設計建設、維持管理運営を行う事業者を選定するため、大学教授等の学識経験者3名を含む事業者選定委員会によって、最も優れた提案を選定し、市議会12月議会で審査、議決され、正式に事業者が決定しました。



「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」

複合交流拠点として令和7年春に開館予定

新庁舎周辺整備事業の概要が決定しました

「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」複合交流拠点とは？

子育て支援センターや、屋内外の子ども広場と、図書館、地域交流センター、カフェを備えた複合施設で、子どもから高齢者まで多くの人が訪れ、市民の居場所となる施設を目指しています。

1階は地域交流ゾーンとして、地域交流センターのほか、新聞雑誌コーナーやカフェがあります。また、イベントスペースとして、講座の開催や市民の活動・交流など、さまざまな用途に活用できます。

2階は子どもゾーンとして、現在は別々の場所にある「子育て支援センター」と「図書館の子ども図書室」の機能が、新たに、屋内・屋外の子ども広場が加わります。ここでは、子育ての相談窓口に加えて、雨の日でも親子で安全に遊んだり、声に出して本を読んだり、読み聞かせ会に参加することもできます。

3階は、これまで通り静かな図書館として、読書や学習を楽しむことができます。また、施設内の全ての場所、飲み物を飲みながらの利用が可能です。



11



建設中の複合交流拠点

12



建設中の複合交流拠点

13



複合交流拠点（模型）

14



複合交流拠点（模型）

15



複合交流拠点（模型）

16



複合交流拠点（模型）